

「この世の中で一番偉い人間は企業家である」
J. A. シュンペーター

SIP
Strategic Investment Partners Inc.

ニュービジネスとビジネス・キャリア

SIPフィナンシャル・グループ株式会社
エス・アイ・ピー株式会社

代表取締役社長 齋藤茂樹

自己紹介

齋藤茂樹 (サイトウ シゲキ)

1961年生まれ。東京大学経済学部卒業後、85年に民営化一期生としてNTTに入社。大企業向け通信ネットワークの販売・構築、料金・サービス契約約款のデザイン、認可業務等を担当、94年退社。97年、米国マサチューセッツ工科大学（MIT）スローンスクールにてハイテクベンチャーの経営を学び、MBA取得。その後、米国ネットスケープ・コミュニケーションズ入社、日本市場でのポータル・ビジネスを統括。（株）デジタルガレージでは、公開期の中心メンバーとして参画、代表取締役として大手企業への戦略的インターネット・ソリューションを提供。大企業とともに新規事業を立ち上げる手法「スポンサード・インキュベーション」を開発。2004年～2011年までデジタルハリウッド大学大学院教授としてデジタルコンバージェンス論及びベンチャーキャピタルビジネス論で登壇に立つ。現在は、エスアイピー・フィナンシャル・グループ株式会社代表取締役社長。エス・アイ・ピー株式会社社長としてインターネット・半導体・ロボット・農業をはじめ幅広い領域で活動中。



日本ベンチャーキャピタル協会理事、日本ベンチャー学界会員

◆著書

「イノベーション・エコシステムと新成長戦略」丸善出版

「デジタル・コンバージェンスの衝撃～通信と放送の融合で何が変わるのか」日経BP企画

「世界は君を待っている！ -MBA留学とグローバル・リーダーシップ」（共著）中央経済社

資本主義をドライブするのは利潤の創造の力

①

利潤の源は、中世の重商主義者の時代において、貿易商人がアジアの貴重な資源をヨーロッパという異なる経済価値圏にもってきて商財を貿易することでその価値の差異を利益輩出する。異なる経済圏間の裁定取引。

②

マルクスは、産業革命後の工業社会においては、資本家が労働力を搾取することで新たな価値をつくり新しい収益の源をつくったと解釈。金融資本主義の発展により、労働者の報酬は貯蓄というかたちで金融機関に預けられ、労働者も資本者階級の一部に組み込まれていくということが起こり、共産革命は挫折。

③

イノベーションとは、「**技術革新をベースに消費者が便利であると受け入れる商品・サービスを未来の先取りとして実現する**」

インベンションとイノベーション

質問：

**蒸気機関車と、大陸横断鉄道の
どちらが人類のために
役立ったのだろうか？**

イノベーションの段階的发展

Google のビジネスモデルの発展のケース

検索エンジン



ポータル

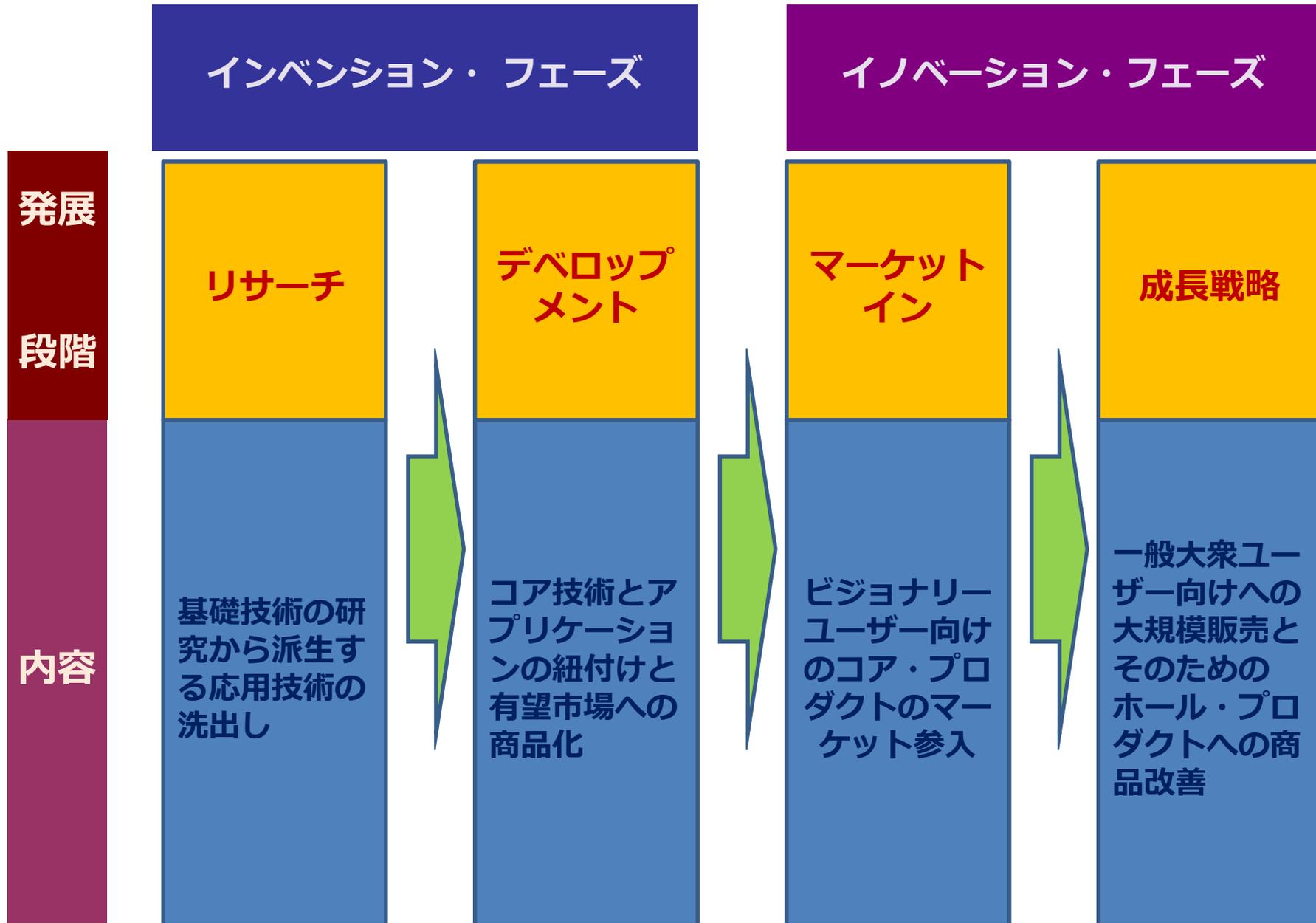


クラウド



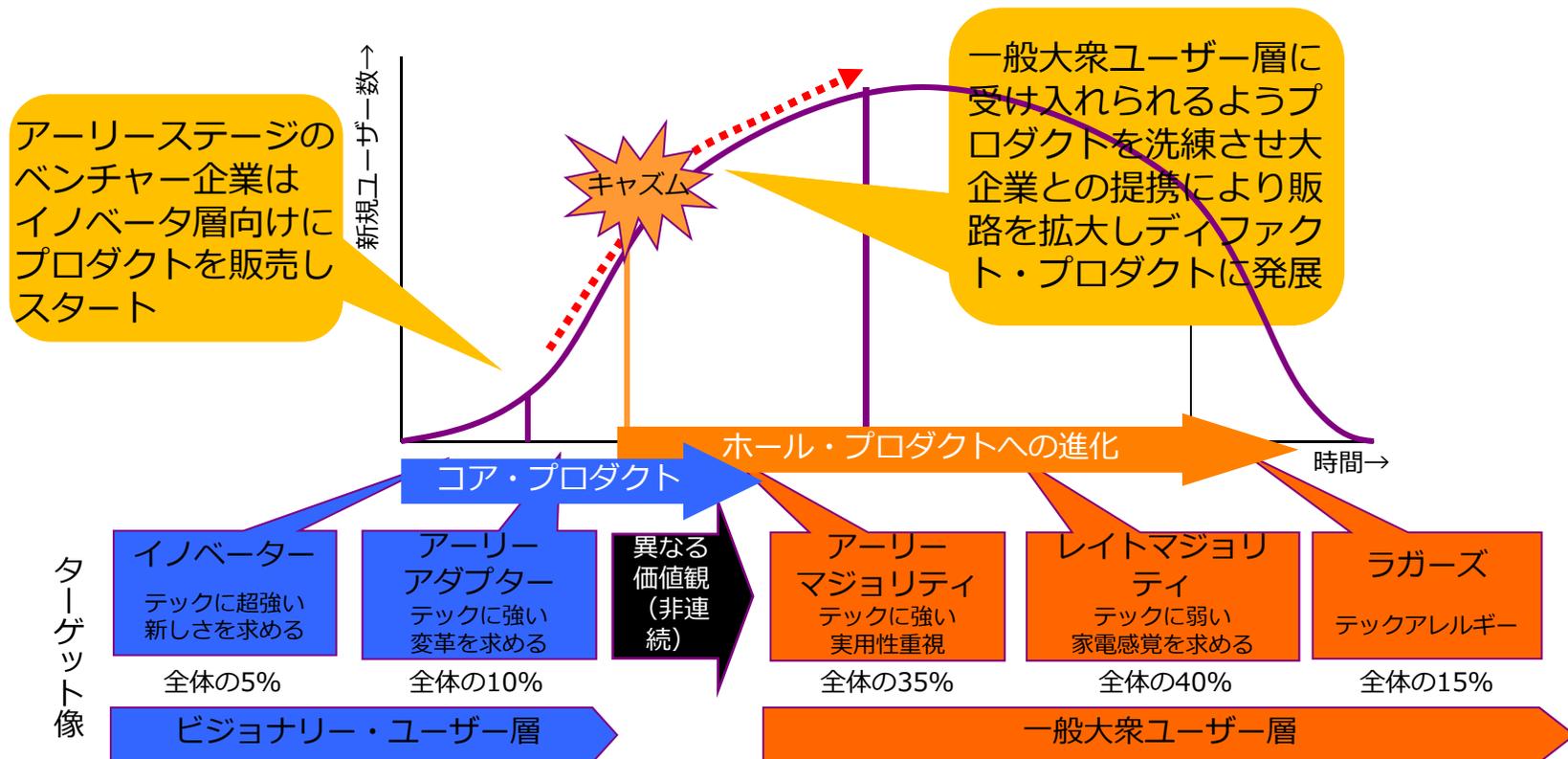
アンドロイド

インベンションとイノベーションの発展フェーズ



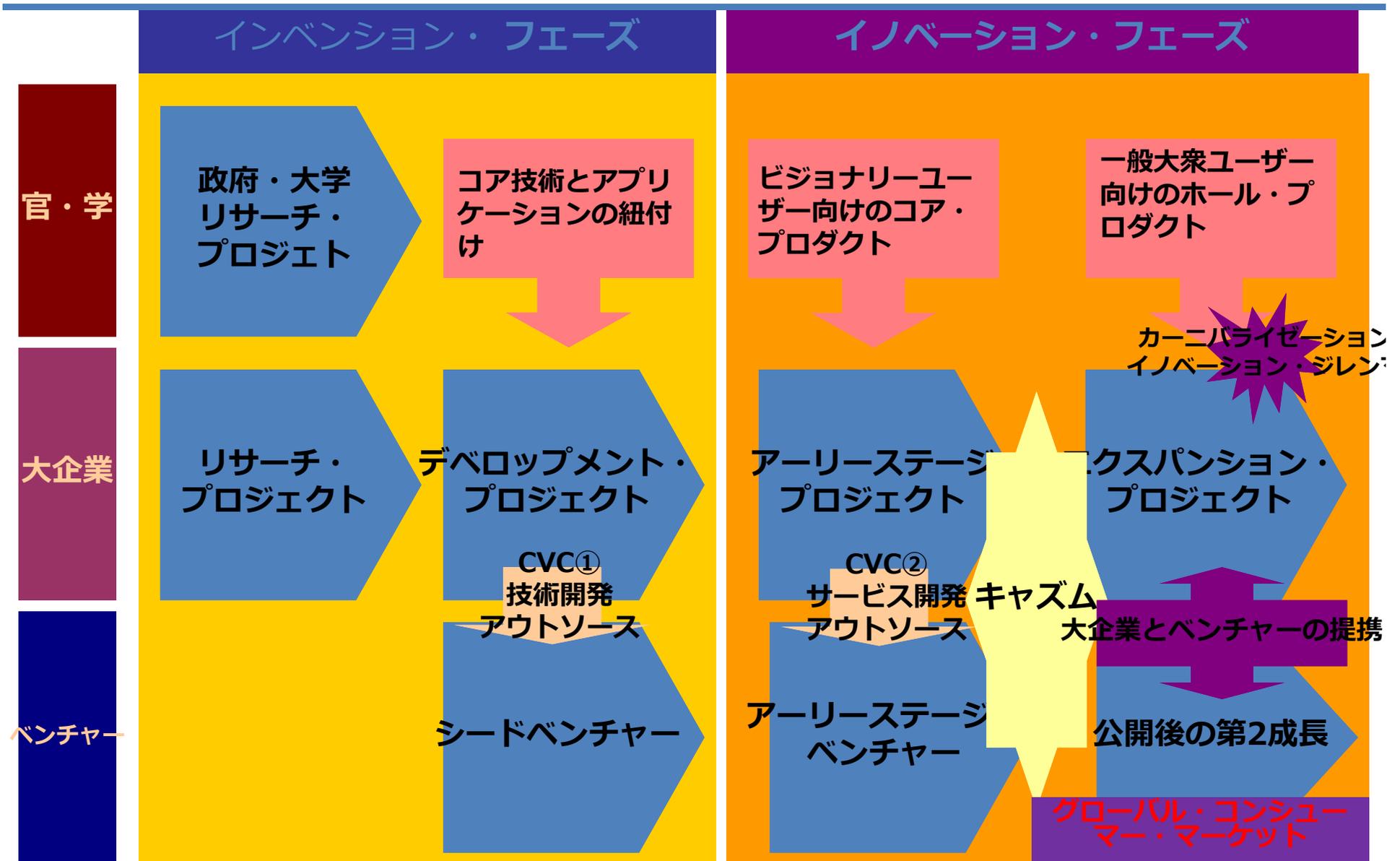
ハイテク・マーケティングの理論 — キャズムの理論

企業が開発したプロダクトはコア・プロダクトと呼ばれるイノベーター層に受け入れられるプロダクト。このコア・プロダクトを一般大衆ユーザー層に受け入れられるホール・プロダクトに商品として進化させ、販売チャネルをもつ企業と提携しプロダクトを販売することでエマーシング・グロースを輩出していく。



* 出所：“Crossing the Chasm” by G.A. Mooreに加筆

ニュービジネスプロジェクトの発展フェーズ



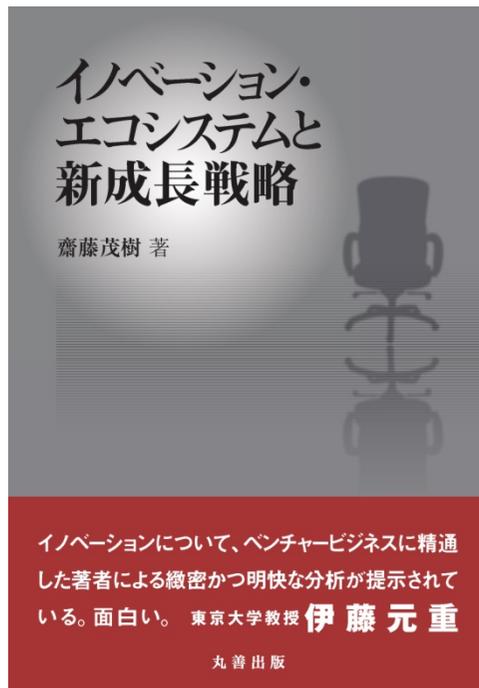
事例 1 通信会社とIP化

事例 2 電気自動車と既存自動車会社

ニュービジネス経営者の資質

- ① 未来をイメージしそれを具現化する能力（ビジョン形成力）
- ② ベンチャービジネスの経営とは、ないないづくしの経営からスタートする実行力（アントレプレニューアーシップ）
- ③ 会社の経営状況をその実態と財務諸表をリンクして理解できる能力（バランスシートを見る目）
- ④ お金儲け主義で働くのではない崇高な人生観（クレラビリティ）

近著 「イノベーション・エコシステムと新成長戦略」丸善出版



次世代日本の成長戦略の柱になるべきは、ニュービジネスの企業群とそのニュービジネスを創っていく主体になれる大手企業とベンチャー企業である。このニュービジネスの一つひとつを木にたとえると、それらの木が森というクラスターを形成するようにつくりあげ、さらに森の中からまた新しい若い木が次々と新しい成長サイクルをつくっていくような生態系システム、すなわちエコシステムをつくりあげることこそが日本の、あるいはグローバル経済における共通の成長戦略である。本書では、この日本の成長戦略を考えるために、経済成長を引き起こすイノベーションとはどういう仕組みであるべきか、さらには自律発展的なエコシステムをどうつくりあげていくべきか、について具体的に議論を展開していく。

刊行によせて (日本ベンチャー学会前会長 一橋大学教授 伊藤邦雄)

本書の著者の齋藤茂樹さんは、こうした問題を熟知し、かつ私と同じ問題意識を共有してきた豊かな将来性をもった若きベンチャーキャピタリストです。齋藤茂樹さんは、アメリカのMITで教育を受け、アメリカの起業家精神や資本主義の実態を目の当たりにしてきました。それをベースに日本に戻ってからのベンチャーキャピタリストとしての経験に照らして、未来志向でわが国の羅針盤を提示したのが本書です。一緒に夢を追いかけて、この国を再び輝かせましょう

- 第1章 資本主義とイノベーション
- 第2章 インベンションとイノベーションの発展段階
- 第3章 大企業とベンチャー企業
- 第4章 リスクファイナンス・ビジネスのあり方
- 第5章 イノベーション・マーケット
- 第6章 グローバルマーケットをもう一度考える
- 第7章 イノベーション・エコシステム創造への挑戦
- 第8章 アントレプレニューアの生まれる社会